

## 「(仮称) えりも町風力発電事業環境影響評価方法書」に対する質問事項及び事業者回答

## 1. 事業全体に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
1-1		前倒し調査	1次	「前倒環境調査を適用した適切かつ迅速な環境影響評価の実施について (H30, NEDO)」に示されるような前倒し調査を実施 (又は予定) している場合は、環境項目ごとに調査の実施時期・内容をご教示ください。	【非公開】
1-2		相互理解等	1次	地域関係者への情報提供について、どのように行っていく計画か、事業者の方針をお示しください。	地域関係者への情報提供は、方法書手続きまでと同様にえりも町役場を中心に関係行政と相談のうえ、幅広い周知方法について検討させていただきます。
1-3		図書の公表	1次	①貴社ウェブサイトにおける、本方法書のインターネットでの公表期間は意見提出期限までとしていたほか、電子縦覧図書のダウンロードや印刷について不可としていました。これらについて、図書の公表に当たっては、広く環境保全の観点から意見を求められるよう、印刷可能な状態にすることや法に基づく縦覧期間終了後も継続して公表することにより、利便性の向上に努めることが重要と考えますが、事業者の見解を伺います。 ②環境省は、縦覧又は公表期間を超えると、環境影響評価図書の閲覧ができなくなっていることを踏まえ、国民の情報アクセスの利便性向上や情報交流を図ることを目的に「環境影響評価図書の公開について」(環境省大臣官房環境影響評価課長通知、H30.4.1施行R4.6.30改訂)を発出し、事業者の協力を得て、環境影響評価図書の公開を進めることとしていますが、本通知に対する事業者の見解についてご教示ください。	①環境影響評価の手続きは、風車配置・管理用道路等の事業計画が審査段階であり最終決定ではないこと、またダウンロードや印刷後の二次利用の回避の観点から、常時縦覧が難しい旨ご理解いただきたく存じます。利便性については、説明会での要約資料の配布や、縦覧期間の延長(意見書提出期間含む)の検討を引き続き行っていく方針です。 ②ご指摘の環境省通知の発出内容について認識しておりますが、環境影響評価の手続きは、風車配置・管理用道路等の事業計画が審査段階であり最終決定ではないこと、またダウンロードや印刷後の二次利用の回避の観点から、常時縦覧が難しい旨ご理解いただきたく存じます。

## 2. 「第2章 対象事業の目的及び内容」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
2-1	5	図2.2-1	1次	①海側の日高町の表記が消えているので、修正してください。 ②対象事業実施区域は、帯広空港に近接しており、また釧路空港への飛行経路にも近接することから、航空機の飛行経路に影響を及ぼす可能性がありますので、東京航空局帯広出張所及び東京航空局釧路事務所等の関係機関に確認してください。	①【別添資料2-1①】に修正した図面をお示しいたします。 ②航空機の飛行経路に関する関係機関への確認を行います。
2-2	6, 7	図2.2-1(3)(4)	1次	①風力発電機の配置が明らかにされていませんが、適切な調査方法(現地調査地点等)の検討には、風力発電機の配置の情報が必要なものもあるため、配置計画を明らかにして方法書手続を実施することが望ましいと考えますので、現段階での風車の配置計画等をご提示ください。 ②今後、風車の配置によっては、本方法書で示されている調査地点等の見直しが必要となるおそれがありますが、どのように対応されるお考えでしょうか。	①風力発電機の配置計画は、用地交渉を含めて現在協議中ですが、現段階での配置計画を【別添資料2-2①】<非公開資料>にお示しいたします。 ②方法書の対象事業実施区域の設定範囲を広く設定することにより、広範囲での環境データの把握に努め、予測評価を適切に実施する方針です。なお、今後の事業計画の検討において風車配置が決定し、環境調査地点の見直しが必要となった場合は方法書の調査計画を見直し、専門家による助言等も踏まえたうえで環境調査を実施し、予測評価を行います。
2-3	9	図2.2-2(2)	1次	①確認ですが、搬入路等の造成を行う可能性がある範囲は対象事業実施区域に全て含まれているという理解で間違いありませんでしょうか。 ②対象事業実施区域の中心部に風力発電機設置予定区域となっていない箇所がありますが、どのような変更を想定して対象事業実施区域から除外しなかったのか、ご教示願います。	①搬入路等の造成範囲を包含した対象事業実施区域の設定としています。 ②ご指摘の箇所は保安林のため風車配置及び管理用道路の造成による変更を生じない計画であり、風力発電機設置予定区域から除外しておりますが、周辺での造成等による環境影響を把握する観点から調査区域を想定して除外しなかったものです。
2-4	18	表2.2-3	1次	発電機の出力が配慮書段階から増加していますが、配慮書段階から変更となった理由をお示しください。	配慮書段階より単機出力が大きい風力発電機の調達が可能になったため、最大の環境影響検討を想定して増加したものです。
2-5	18, 20, 21	風力発電機の設備の配置計画、変電施	1次	風力発電施設や工事用道路等の具体的な位置が決定した段階で、工事中の濁水等について、河川管理者と打合せ願います。	事業計画の熟度に応じて、河川管理者協議を適切に実施いたします。
2-6	25	(b) 土地利用に関する事項	1次	対象事業実施区域の大半は農地(牧草地)とのことですが、対象事業実施区域位置図(航空写真)(P8, 9)、生態系の状況の説明(P95: 対象事業実施区域内では、シラカンパーミズナラ群落が広く分布)、環境類型区分(P97)や土地利用基本計画図(P127)を見る限り、「大半は農地」との記載は他との整合が取れていません。当該認識について、その判断理由を伺います。	申し訳ございません。ご指摘のとおり「大半は農地(牧草地)」という記載は誤りとなりますので、「対象事業実施区域の大半は農地(牧草地)であり、事業実施に必要な範囲については農地転用を申請する予定である。」の一文については削除し、「対象事業実施区域の一部は「森林法」(昭和26年法律第249号)に基づく保安林に指定されている。風力発電機の大型化に伴い、伐採や道路の造成が必要となる場合でも、土地の変更及び樹木の伐採範囲を最小限にとどめる計画である。」へ準備書で修正いたします。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
2-7	25	(d) 残土	1次	残土は事業実施区域内で処理すれば良いというのではなく、埋め戻し、盛土及び土捨て場において処理する場合であっても、アセス評価項目の水質への影響だけでなく住民に向けて災害防止の観点からの対応が必要と考えるが、「区域内での残土の処理が難しい」との判断はどのような状況を想定しているのか、伺います。また、検討段階においては、まず残土の発生量を減らす方向での検討を行う必要があるのでしょうか、あわせて見解を伺います。	ご指摘のとおり、今後の事業(造成)計画の検討において造成量の削減を優先的に検討し、改変面積及び樹木伐採を最小化して環境影響の低減に努めます。「区域内での残土の処理が難しい」ケースとして、尾根部への盛土による災害発生リスクの懸念、土捨て場候補地における重要な動植物の生育生息環境への影響増大リスクの懸念等があり、このような場合は事業コストを投じて場外処分を行うことが環境影響の低減となる場合を想定したものです。
2-8	25	(e) 緑化	1次	切盛土面は可能な限り緑化する計画とのことですが、これは法面だけを指しているのか、ヤード等の平面部分についても可能な限りの緑化を行うのか、ご教示願います。	ヤードの平面部は、維持管理において利用することから、碎石・舗装等を行う計画としています。
2-9	25	(f) 工事用仮設備の概要	1次	本ページの「(a) 工事中の排水に関する事項」では対象事業実施区域内に仮設の工事事務所を設置するとありますが、本項目では区域内もしくはその近隣となっています。どちらが正しい情報を示しているのかご教示願います。	統一しておらず申し訳ございません。方法書段階においては仮設工事事務所の配置は「対象事業実施区域内もしくはその近隣」が正となります。なお、準備書では工事計画が明確となりますので、配置状況について明記いたします。
2-10	27	風力発電所(事業)の状況	1次	対象事業実施区域の南側のエリアには防衛省航空自衛隊襟裳分屯基地があり、対象事業実施区域は500mの離隔をとった(P592)としていますが、他事業において防衛省との協議により除外したと推定される区域が本事業には含まれています。使用する可能性のない箇所については関係機関等に確認の上、対象事業実施区域から予め除外すべきと考えますので、見解を伺います。また、航空自衛隊との協議状況についても具体的にご教示ください。	方法書の対象事業実施区域の設定範囲を広く設定することにより、広範囲での環境データの把握に努め、予測評価を適切に実施する方針です。ご指摘の航空自衛隊襟裳分屯基地周辺については、準備書段階において航空自衛隊との協議を進めながら、対象事業実施区域からの除外を検討いたします。 【以降、非公開】

### 3. 「第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
3-1	29	第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況	1次	関係地域は「主にえりも町」とありますが、場合によっては隣接している様似町及び広尾町も関係地域に含まれるということでしょうか。隣接地域の協議結果の概要を示した上、「主に」についての事業者の見解をご教示願います。	環境影響が広範となる景観について、西側に隣接する様似町への影響可能性があることから「主にえりも町」としたものです。東側に隣接する広尾町については、影響が想定されないため関係地域の対象外としています。方法書手続きにおいて、様似町への事前協議(R5.8.21)を行い、関係地域に該当しない旨の回答を得ております。
3-2	38	(b) 湧水の状況	1次	えりも歌別さけ・ますふ化場の位置が、どの図に示されているのかをご教示ください。	P131の「図3.2-2 河川取水等の利用状況」にお示ししております。また、ご指摘の文章においては「また、えりも町への聞き取りによると、えりも歌別さけ・ますふ化場(図3.2-2に位置図を示す)において湧水の利用が確認されている(えりも町役場企画課聞き取り、令和5年6月)」へ準備書において修正するようにいたします。
3-3	39	(a) 地下水	1次	地下水の水質測定結果が示されているえりも町廃棄物処理施設の位置が、どの図に示されているのかをご教示ください。	【別添資料3-3】に地下水の水質測定を実施している最終処分場の施設位置をお示しいたします(えりも町クリーンセンターより聞き取り、令和5年11月2日)。図書に施設位置情報は記載されていないため、準備書において位置図を記載するようにいたします。
3-4	40	表3.1-8	1次	3月のデータがないので、修正してください。	【別添資料3-4】に修正した表をお示しいたします。
3-5	41	図3.1-4水象の状況	1次	①対象事業実施区域内の普通河川名も記載した図をお示しください。 ②38ページにおいて主な湖沼として記載のある豊似湖の位置を明示してください。	①②【別添資料3-5】に修正した図をお示しいたします。
3-6	58	図3.1-10	1次	①区域の東端とKBAが重複しているように見えますが、重複しているのか、作図のズレ等が生じているだけで、実際は重複していないのか、ご教示願います。 ②重複している場合、現段階で区域から除くことができなかった理由をお示しください。	①作図のズレではなく、原典のデータを使用してお示ししており、対象事業実施区域と重複しております。 ②対象事業実施区域については、方法書段階で風力発電機の配置の可能性がある範囲を含めて設定しており、配置可能性の面から、KBAを除外しておりませんでした。準備書においては、風車配置を検討のうえ重要な生息地の除外を検討いたします。
3-7	59	鳥類の渡り経路等	1次	①EADASセンシティブティマップを確認していますが、当該情報には夜間の渡りルートが掲載されており、えりも岬上にルートが通っていることが示されています。図書においてそれらの情報を収集しなかった理由を伺います。 ②夜間の渡りの状況は正確な把握が難しいと思われませんが、渡りの状況を把握できるよう、調査手法に反映する必要があると考えますが、事業者の見解を伺います。	①申し訳ございません。ご指摘のとおり、夜間の渡りルートでは襟裳岬において春季及び秋季の飛翔ラインデータが示されておりますので、準備書において適切に記載するようにいたします。また、飛翔データについては【別添資料3-7①】にお示しいたします。 ②夜間の渡りの状況の正確な把握手法については、実効性の高い手法の有無を含めて専門家の助言等を得ながら検討したいと存じます。
3-8	104	図3.1-31(1)	1次	本図に風力発電機設置予定区域を重ねたものを参考に、ご教示願います。	【別添資料3-8】に重ねた図をお示しいたします。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
3-9	116	表3.1-37	1次	とんがりロードフットパス（猿留山道コース）があることが示されていますが、こちらを人と自然との触れ合いの活動の場に選定する必要はないでしょうか。また、当該フットパスには湖道コースもありますが、こちらも同様に選定する必要はなかったのでしょうか。これらのフットパスコースについての事業者の見解をご教示願います。	ご指摘の「湖道コース・猿留山道コース」のフットパスについては、対象事業実施区域に重複しないことより、選定いたしませんでした。また、えりも町へのヒアリングにおいて、該当フットパスについては地点追加のご要望はございませんでしたが、「猿留山道コース」は一部区間が猿留山道と重複するため、現地調査において「湖道コース・猿留山道コース」を追加するかについては検討いたします。
3-10	117	図3.1-35	1次	注釈に「猿留山道は現存コースを示す」とありますが、現存コースとは復元コースのことを示しているという認識でよろしかったでしょうか。「現存」であれば、林道や町道と重複している区間も含まれるようにも読めますので、「現存」の意味を明確にした上で、「人と自然との触れ合いの活動の場」とした範囲をご説明願います。	ご認識のとおり、復元コースを示しております。P117に記載の「※1猿留山道は現存コースを示す。」については、「※1猿留山道は現存区間(復元コース)を示す。」と明記し、準備書では修文するようにいたします。
3-11	126 128	3.2.2 土地利用の状況 (a)土地利用基本計画	1次	対象事業実施区域内及びその周囲は、地域森林計画対象民有林であり、1haを超える開発行為（土地の形質を変更する行為）をする場合は、知事の許可を受ける必要があるため、所管の（総合）振興局産業振興部林務課と打合せすること。 なお、次に該当する場合は、上記許可に際し、知事が北海道森林審議会に諮問し、答申を受ける必要がある。 【新規許可の場合の審議会諮問基準】 ①開発行為に係る森林面積が10ha以上のもの。 ②開発行為に係る森林面積が10ha未満であって、全体計画の一部についての申請である場合は、全体計画の開発行為に係る森林面積が10ha以上のもの。 ③開発行為に係る森林の全部又は一部が、水資源保全地域にあるもの。 (R5.10事業実施想定区域の周辺には水資源保全地域はない。)	対象事業実施区域内に広く地域森林計画対象民有林があることを認識しています。事業による開発面積は、審議会諮問基準に該当する見込みであることから、事業計画の検討段階にて振興局産業振興部林務課への協議を行います。
3-12	127 ～ 129	3.2.2土地利用の状況	1次	対象事業実施区域及びその周囲は、農業地域、森林地域及び自然公園地域に掛かっています。土地利用基本計画図の変更がある場合は、所定の手続きが必要となりますので留意願います。	事業に伴い土地利用基本計画図の変更が想定される場合は、関係機関協議を適切に実施いたします。
3-13	130	(1)河川、湖沼、海域の利用状況	1次	「上歌別川を水源とする取水地点及びその集水域の一部源頭部が対象事業実施区域内に位置する」とのことですが、 ①当該取水地点及び集水域を対象事業実施区域から除外できなかった理由をご教示ください。 ②水道水源への影響に関し、えりも町との協議状況及び今後の予定に関する事業者の見解について、ご教示ください。 ③水道水源への影響は回避することが望ましいと考えますが、影響の回避及び低減に係る事業者の見解をご教示ください。	①当該取水地点の上流部での事業計画はありませんが、地形及び標高を考慮して風車配置予定区域を設定した結果、当該取水地点が含まれたため除外しなかったものです。ご指摘を踏まえ、準備書段階では対象事業実施区域から当該取水地点の集水域の除外を検討いたします。 ②③水道水源への影響は、今後検討する事業計画を基にえりも町と協議を行う予定です。水道水源の取水地点及び流域への影響は原則、回避する方針です。
3-14	130	(1)河川、湖沼、海域の利用状況	1次	農業用水及び畜産業の水について、河川水を利用していることを把握されていますが、利水者との協議状況及び今後の予定に関する事業者の見解について、ご教示ください。	水利用に係る関係者協議は、今後の事業計画の検討を踏まえて開始する方針であり、方法書手続き終了後に協議開始を予定しています。
3-15	130	(1)河川、湖沼、海域の利用状況	1次	対象事業実施区域内にえりも歌別さけ・ますふ化場があり、また、保護水面が設定されている歌別川が流下していますが、漁業関係者との協議状況及び今後の予定に関する事業者の見解について、ご教示ください。	漁業関係者との協議は、今後の事業計画の検討を踏まえて開始する方針であり、方法書手続き終了後に協議開始を予定しています。
3-16	136	(2)地下水の利用状況	1次	井戸密集地域は対象事業実施区域内にはないとのことですが、対象事業実施区域内には住宅等が存在しています。 ①対象事業実施区域内の住宅等において井戸水が利用されている可能性はないでしょうか。利用の有無についてどのように把握されるのかをご教示下さい。 なお、現時点で把握していない場合は、今後の予定についてご回答ください。 ②井戸水を利用していることが確認された場合、どのような配慮を想定されているかをご教示ください。	①井戸水の利用状況について、方法書手続き終了後にえりも町への聞き取り調査を行うとともに、地元地区への聞き取りを行います。 ②井戸水利用が確認された場合、当該井戸との離隔確保に努めるとともに、準備書手続き終了までに利用者協議を行い、必要に応じて工事着工前の事前調査等の検討を想定しています。
3-17	140	環境の保全についての配慮が特に必要な施設の状況 (学校) (医療機関・福祉施設等)	1次	えりも町再生可能エネルギー発電設備等の設置及び運用の基準に関する条例においては、大型風力は学校や福祉施設を含む住宅等との距離を風車の全高の5倍以上離すとされており、本事業では約800m～900mとなると、風力発電機設置予定区域から最短の施設は約540mに位置しているほか、800m未満に複数の施設が存在している。法令に適合しない計画としている理由を伺います。	方法書に記載の風力発電機設置予定区域は、現時点で風力発電機の配置可能性のある尾根筋の250m範囲を目安に設定したことから、800m未満に複数の施設が存在しています。風力発電機の配置は今後検討いたしますが、住宅等との離隔は法令を遵守し、騒音影響等の回避・低減を考慮した離隔確保を行います。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
3-18	145, 150-153	(2) 住宅の配置の概況	1次	住宅等については対象事業実施区域内にも存在しています。 ①P145の本文では、対象事業実施区域との離隔状況について説明されていますが、風力発電機設置予定区域との離隔状況をご教示下さい。 ②えりも町再生可能エネルギー発電設備等の設置及び運用の基準に関する条例を遵守した計画となっているのか、見解と対応を伺います。 ③今後の風力発電機設置場所の検討にあたり、住宅等への影響の回避及び低減について、事業者の見解をご教示ください。	①ご指摘の箇所について「住宅等については対象事業実施区域及び風力発電機設置予定区域の周囲の他、各区域内にも点在する。」へ修正いたします。準備書では、状況について適切に本文に記載するようにいたします。 ②方法書に記載の風力発電機設置予定区域は、現時点で風力発電機の配置可能性のある尾根筋の250m範囲を目安に設定したことから、800m未満に複数の施設が存在しています。風力発電機の配置は今後検討いたしますが、住宅等との離隔は法令を遵守し、騒音影響等の回避・低減を考慮した離隔確保を行います。 ③住宅等との離隔は法令を遵守し、騒音影響等の回避・低減を考慮した離隔確保を行います。また、風力発電機の基数削減も念頭に事業計画の見直しも検討いたします。
3-19	154	表3.2-18	1次	最新版として令和3年度実績が出ているので、修正してください。	【別添資料3-19】に修正した表をお示しいたします。
3-20	157, 158	表3.2-20 図3.2-14	1次	表内で、対象事業実施区域から半径50kmの範囲内の新ひだか町の間処分施設は3箇所となっていますが、図では2箇所しか見当たらないので、ご確認ください。また、聞き取りの実施が令和4年度になっていますので、最新の状況について改めて確認して下さい。	申し訳ございません。ご指摘のとおり、箇所数に誤りがあるため、【別添資料3-20】に最新の情報収集に基づく正しい箇所数の表及び位置図をお示しいたします。
3-21	158	図3.2-1	1次	①図題は産業廃棄物処理事業者であり、出典は産業廃棄物処理施設一覧であることのことですが、本図では施設の位置が示されているのか、施設設置者の本社位置が示されているのかをご教示ください。 ②対象事業実施区域内に「中間処分・最終処分」が存在しますが、当該処理場の範囲を区域から除外しなかった理由をご教示ください。	①統一できておらず申し訳ございません。P158の図3.2-14は「産業廃棄物処理施設位置」を示しております。図題について準備書で修正いたします。 ②方法書の対象事業実施区域の設定範囲を広く設定することにより、広範囲での環境データの把握に努め、予測評価を適切に実施する方針です。なお、当該処理場に風力発電機その他事業計画を行う予定はありません。
3-22	180	表3.2-45	1次	対象事業実施区域内に国定公園が存在すると整理されていますが、区域と国定公園のどの部分が重複しているのか、また、なぜ方法書段階で除外しなかったのか、事業者の見解をご教示願います。	第2種特別地域の主要地方道34号襟裳公園線の一部が重複しています。襟裳公園線は輸送路としての利用可能性のあること、また対象事業実施区域については、方法書段階で風力発電機の配置の可能性の面から、国定公園の範囲を除外しておりませんでした。
3-23	180	(2) 自然関係法令等	1次	対象事業実施区域及びその周囲には、「山地災害危険地区調査要領」（平成18年7月林野庁）に基づく、山地災害危険地区が存在しており、土砂災害の発生のおそれがあることから、山地災害危険地区へ影響しない場所への施設計画を検討すること。	事業計画の検討において、山地災害危険地区への影響に配慮いたします。
3-24	181	表3.2-46	1次	①対象事業実施区域には自然公園法に基づき指定された日高山脈襟裳国定公園が隣接しており、利用施設計画に位置づけられている「百人浜園地」、「襟裳岬園地」、及び「黄金道路線道路（車道）」などが存在する。また、日高山脈襟裳国定公園及びその周辺は、令和6年中に国立公園として新規指定されることが環境省から示されており、事業実施想定区域も国立公園に含まれる可能性があることから、事業内容及び計画時期について、十分に検討する必要がある。 本事業は最大35基の風力発電設備を計画しており、規模（高さ）が179.4mと大型であることから、公園利用施設・眺望点からの景観に対する非常に重大な影響が懸念される。 このため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、現地調査により主要な眺望点からの眺望の特性、利用状況等を把握した上で、フォトモンタージュを作成し、垂直見込角、主要な眺望方向及び水平視野も考慮した客観的な予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、重要な眺望景観への影響を回避又は極力低減すること。 ②また国立公園指定について、関係機関へのヒアリングは実施しているのでしょうか。実施していない場合は今後の実施予定を、すでに実施している場合はその結果概要（ヒアリング対象、実施日、意見等）をご教示願います。	①承知いたしました。風力発電機の採用機種は現在未定ではありますが、配置計画においては「国立・国定公園内における風力発電施設の審査に関する技術的ガイドライン（環境省 平成25年3月）」の考え方を参考に今後実施する現地調査及び調査結果に基づく環境影響予測・評価も踏まえ、日高山脈襟裳国定公園への眺望景観への影響を極力回避または低減するように検討してまいります。 ②国立公園指定の計画は認識しておりますが、関係機関へのヒアリングは、事業計画の検討を踏まえて、準備書作成前に実施し準備書の地域概況に記載する予定です。
3-25	184	表3.2-49	1次	豊似湖鳥獣保護区が図書縦覧期間中に存続期限を迎えています。本区域の最新の情報はどのようになっているかをご教示願います。	豊似湖鳥獣保護区については出典「令和5年度(2023年度)北海道鳥獣保護区等位置図(地図編)・(別冊編)」(令和5年、北海道)によれば、指定区分：道指定鳥獣保護区、名称：豊似湖鳥獣保護区、区域位置町名：えりも町、指定区分：森林鳥獣生息地、存続期間：令和5年10月1日～令和25年9月30日、鳥獣保護区面積：258haとして新たに指定されております。また、同出典より位置についても令和4年度より変更がないことを確認しております。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
3-26	190	図3.2-20	1次	対象事業実施区域と埋蔵文化財包蔵地が一部重複していますが、これらを区域から除外しなかった理由についてご教示願います。	対象事業実施区域内に含まれる埋蔵文化財包蔵地について、管理用道路の設置可能性のある地域を除外しなかったものです。風力発電機の配置を含む事業計画は今後検討いたしますが、埋蔵文化財への影響が生じないように配慮いたします。 埋蔵文化財包蔵地が事業計画地に重なる場合は、えりも町教育委員会への相談を行い、試掘等の対応について協議させていただきます。
3-27	191	(h) 景観法等	1次	地域の景観の保全を考える上では、風力発電機の位置・配置や意匠形態に配慮することのみならず、地域住民との間にどれだけ合意形成が図られているかが重要となります。風力発電機の建設と周囲景観の保全について、地域住民への積極的な情報提供や説明などにより、相互理解の促進に努めてください。 また、周囲との調和を図るために ・「北海道景観計画」 ・「北海道太陽電池・風力発電設備景観形成ガイドライン」 を参考にし、事前相談を行うなど、景観法の届出の手続きが順調に行えるようにしてください。	地域との合意形成について、景観の視点場の設定にあたり地域へのヒアリングの実施検討、風力発電機の配置計画を検討のうえフォトモンタージュ等を作成し、準備書段階において地域への事前説明を行い相互理解の促進に努めます。 また、ご指摘いただきました景観法の届出を適切に実施できるよう、北海道景観計画、景観形成ガイドラインを参考として事前相談を実施いたします。
3-28	193 ほか	(o) 保安林	1次	①事業実施想定区域内及びその周囲は、保安林に指定されているので保安林を避けて計画すること。 やむを得ず保安林内での計画が必要な場合は、国有保安林は所轄の森林管理署、民有保安林は所管の（総合）振興局産業振興部林務課と速やかに打合せをすること。 また、次に該当する場合は、保安林の転用に係る解除に際し、知事が北海道森林審議会に諮問し、答申を受ける必要がある。 【保安林の転用に係る解除の場合の審議会の諮問基準】 ※林野庁所管の保安林におけるものを除く。 ①転用に係る面積が1ha以上のもの。 ②転用に係る面積が1ha未満であって、次に該当するもの。 ・転用の目的、態様等からして、国土保全等に相当の影響を及ぼすと認められるもの。 ・森林審議会の諮問を要する林地開発行為の許可と一体となって、保安林の解除を要するもの。 ②水源かん養保安林及び魚つき保安林について、それらの指定目的と、求められる配慮について、事業者の見解をお示しくください。	①事業計画の検討においては、ご指摘のとおり保安林の回避に努めます。保安林内での計画が必要な場合は、可能な限り速やかに日高南部森林管理署、振興局産業振興部林務課に事前相談をさせていただきます。そのうえで北海道森林審議会の諮問、答申手続きについて指導をいただき、適切に対応いたします。 ②水源かん養保安林及び魚つき保安林の指定目的と求められる配慮について、以下のとおり理解しています。 ＜水源かん養保安林＞ 流域保全上重要な地域にある森林の河川への流量調節機能を高度に保ち、洪水の緩和・各種用水の確保を目的とすることから、土地の形質変更及び樹木伐採を最小限とし、排水設備等を適切に配置し土砂災害等の防止に努める。 ＜魚つき保安林＞ 水面に対する森林の陰影の投影、魚類等に対する養分の供給、水質汚濁の防止等の作用により魚類の生息・繁殖の促進を目的とすることから、土地の形質変更及び樹木伐採は最小限とし、水域への濁水防止対策を適切に実施する。
3-29	198-	図3.2-23 等	1次	①対象事業実施区域内に砂防指定地、土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）、土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）、土砂災害危険箇所（土石流危険渓流）が存在し、事業実施により土砂の流出による水環境や山麓の生態系等への影響について、事業者の見解を伺います。 ②P.326に記載されている事業者の見解で「河川・沢筋等からの距離の確保に努める」としながら、これらを風力発電機設置予定区域から除外しなかった理由についてご教示願います。 ③事業実施による土砂流出の回避及び低減について、事業者の見解をご教示ください。 ④これらの区域において事業を計画するに際して関係機関と協議等を行っている場合は、協議状況をお示しくください。協議等を行っていない場合は、いつまでに行う予定か、お示しくください。	①事業に伴う土砂流出による水環境及び山麓生態系等への配慮として、造成土量、改変面積及び樹木伐採の最小化に努めます。輸送路を含む事業計画が砂防指定地等にかかる場合は、関係機関との協議を適切に実施いたします。 ②方法書に記載の風力発電機設置予定区域は、現時点で風力発電機の配置可能性のある尾根筋の250m範囲を目安に設定したことから、一部の河川・沢筋を含む範囲となっております。風力発電機の配置は今後検討いたしますが、尾根上に配置する計画であり谷地形への配置予定はありません。 ③土砂流出の回避・低減策は今後検討いたしますが、沈砂池の設置、流出防止策の設置、排水設備流末へのフロンカゴ配置等を想定しています。 ④ご指摘の関係機関協議を今後実施予定であり、事業計画を検討のうえ方法書手続き終了後に事前相談をさせていただきます予定です。
3-30	214 ～ 217	図3.2-31, 32	1次	対象事業実施区域内に、2級河川及び普通河川が含まれることから、河川への影響が想定される場合は除外を検討してください。	2級河川及び普通河川への影響については、河川管理者への事前相談を行い必要に応じ事業計画の見直しを検討いたします。
3-31	218	(w) 農業地域・農用地区域	1次	農地法に基づく農地転用許可及び農業振興地域の整備に関する法律に基づく開発行為許可については、配慮願います。 ○農地法に基づく農地転用許可 事業予定地が農地法に規定する農地又は採草放牧地である場合は、同法に基づく農地転用許可が必要であるため、当該地の現況地目等について農業委員会と十分調整願います。 ○農振法に基づく開発行為許可 事業予定地が農業振興地域の整備に関する法律に規定する農用地区域内である場合は、区域内での開発行為は規制されているので、市町村農振法担当部局と十分調整し、地域農業の振興に支障が生じないように配慮願います。	今後の事業計画検討において、ご指摘いただきました農地法に基づく農地転用許可及び農業振興地域の整備に関する法律に基づく開発行為許可について配慮し、農地転用または農用地区域に事業計画がかかる場合は、適切に行政協議を行います。

4. 「第4章 計画段階配慮事項ごとの調査、予測及び評価の結果」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-1	242	2) 評価結果	1次	配慮書段階で「居住等からは、極力大きな離隔距離を確保する方針を踏まえて、基本的には最低限0.5km程度の離隔距離を確保する予定であること」と記載がありますが、方法書では住宅等と風力発電機の離隔が全くなかったり、配慮が特に必要な施設であっても風力発電機と最低限程度の離隔しか取れていない施設があり、極力大きな離隔距離を確保したとは言えないと考えられます。なぜ離隔を確保できなかったのか、今後これらの施設についてどのように対応されるのか、ご教示ください。	風力発電機の配置計画は、今後の用地協議その他許認可手続きを踏まえて決定いたしますが、P242に記載のとおり「最低限0.5km程度の離隔距離を確保する予定」であるほか、騒音影響等の回避・低減を考慮し住宅等との離隔確保を行います。

5. 「第5章 配慮書に対する経済産業大臣の意見及び事業者の見解」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
5-1	325	1. (3) 環境保全措置の検討	1次	「代償措置を優先的に検討することがないようにすること。」との意見に対し、「代償措置を優先的に検討することがないように努めます。」との見解が示されており、回避・低減措置を検討せずに代償措置を検討する場合はと解されますが、代償措置を優先的に検討する場合は、どのような場合を想定されているかをお示しください。	環境保全措置については影響の回避・低減を優先的に検討し、代償措置を「影響の回避・低減」より優先的に検討することは考えておりません。回避・低減が困難な場合は次の段階として代償措置を検討する方針です。意見に沿った形で見解を記載したため、記載の表記となっております。

6. 「第6章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
6-1	338 339 341 342	専門家等への意見聴取	1次	①一部の専門家等への意見聴取日が約5年前とかなり古いですが、最新の調査手法をはじめとした知見等を確認するためにも、内容について改めて聴取する必要はないでしょうか。また、記載の内容は方法書に記載する段階で専門家に確認をとっているのでしょうか。 ②専門家の意見への対応として、「内容を踏まえ、調査計画を設定した。」「指摘事項に留意して調査を実施する」という趣旨の内容が繰り返し記載されていますが、これではそれぞれの意見に対する具体的な検討状況がわかりません。少なくとも具体的な調査手法や調査地点に対する意見について、調査計画にどう反映したのか、また反映しなかった場合はその理由についてご説明願います。	①事業にあたって、現計画を踏まえ重大な影響が懸念される猛禽類等については、改めて専門家の意見聴取を行った上で調査手法等を検討致しました。一方、猛禽類以外の項目については、当時の有識者のご指摘をほぼ反映した調査計画としたため、意見聴取をしませんでした。また、本方法書に記載の内容については専門家の確認をとっております。 ②【別添資料6-1②】<一部非公開資料>に対応状況の表をお示しいたします。
非公開 6-2			1次	<b>【 非 公 開 】</b>	
植物 6-3	342	専門家等への意見聴取（植物）	1次	専門家から、この辺りはあまり調査に入っていないという意見がありますが、これは聴取した専門家が周辺での調査経験があまりないという意味でしょうか。そうであれば、専門家への意見聴取は複数の専門家、そして地域の状況に精通した専門家に行うことが重要であることを考えると、他の専門家にも意見を聴取する必要があるのではないかと考えられますが、事業者の見解を伺います。	専門家のご意見は、「当該地域は学術調査等による植物・植生の報告が少ないエリア」と理解しています。道内の植物に係る専門家として適切にご意見をいただいたものと考えています。
6-4	344	表6.2-2	1次	評価項目に選定されている地形及び地質、風車の影及び生態系について、調査、予測及び評価の手法では調査地点もしくは予測地点が設定されていますが、なぜここで考え方について整理しなかったのか、理由を伺います。	地形及び地質、風車の影については、保全対象が明確でこれに伴い予測地点も明確なため、記載しておりませんでした。生態系については、動物や植物と調査内容が重複するため、ここでは記載しませんでした。注目種が確定する準備書段階では整理・追記したいと存じます。
騒音等 6-5	345 347	表6.2-3(1)【交通騒音】 表6.2-4(1)【建設騒音】	1次	2(1)の【現地調査】について、発電所に係る環境影響評価の手引（令和2年11月 経済産業省）では、「天気、風向・風速、気温、湿度についても調査する。」とされていますので、これらの項目を調査することに対する見解をお示しください。	ご指摘の現地調査の実施において、天気、風向・風速、気温、湿度についても記録します。これら記載については、準備書において追記するようにいたします。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
騒音等 6-6	346 354	表6.2-3(2) 【交通騒音】 表6.2-7(2) 【交通振動】	1次	5(1)の【現地調査】について、 ①「2日(平日及び土曜日)」とされていますが、日曜・祝日は工事関係車両の出入りはないと解してよろしかったでしょうか。 ②「道路交通騒音(振動)」の状況を代表する日をどのように決定されるのかをご教示ください。 ③交通騒音については、「全時間を通じて測定」とされていますが、24時間測定すると解してよろしかったでしょうか。	①ご理解の通りです。 ②調査地点周辺で地域におけるイベントの開催や工事の実施、セミや鳥等の鳴き声により道路交通の状況が現況と異なる可能性がある期間は避けるなど、現況の道路交通騒音(振動)を的確に把握できる期間に実施いたします。 ③ご理解の通りです。
騒音等 6-7	346	表6.2-3(2) 【交通騒音】	1次	10(2)において、「騒音に係る環境基準について」に規定された基準等との整合性について検討されると思いますが、この「等」とは何を指すのかをご教示ください。 なお、事業実施想定区域及びその周囲には、騒音に係る環境基準の類型指定地域はないとのことですので、どのような基準と整合性を確認されるのかがわかる回答としてください。	「騒音に係る環境基準について」(平成10年環境庁告示第64号)との整合性について検討するため、「等」を削除いたします。なお、現段階では「幹線交通を担う道路に近接する空間」の基準値との整合性について検討することを想定しています。
騒音等 6-8	347	表6.2-4(1) 【建設騒音】	1次	5(1)の【現地調査】について、 ①「環境騒音の状況を代表する3日間」とは、具体的にどのような期間を設定するのかをご教示ください。なお、季節に対する見解や土曜・日曜・祝日を休工とするかを含めた回答としてください。 ②「全時間を通じて測定」とされていますが、24時間測定すると解してよろしかったでしょうか。	①調査地点周辺で地域におけるイベントの開催や工事の実施、セミや鳥等の鳴き声により環境騒音の状況が現況と異なる可能性がある期間は避けるなど、現況の騒音を的確に把握できる期間の平日2日・土曜1日に実施いたします。なお、日曜・祝日は休工により調査期間に含みません。 ③ご理解の通りです。
騒音等 6-9	348	表6.2-4(2) 【建設騒音】	1次	①予測対象時期の「建設機械の稼働による騒音に係る環境影響が最大となる時期」とは、現段階で想定している工事工程でいうとどの段階(工程)にあたるのかをご教示願います。 ②10(2)において、「騒音に係る環境基準について」に規定された基準等との整合性について検討されると思いますが、この「等」とは何を指すのかをご教示ください。 なお、事業実施想定区域及びその周囲には、騒音に係る環境基準の類型指定はないとのこと、及び建設騒音に係る評価であることを踏まえ、どのような基準と整合性を確認されるのかがわかる回答としてください。	①造成工事や電気工事の工程が重複する1~3年目の期間内を想定しております。 ②「等」について「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」(昭和43年厚生省・建設省告示第1号)が該当いたします。なお、現段階では「騒音に係る環境基準について」(平成10年環境庁告示第64号)については「A類型の環境基準(専ら住居の用に供される地域)」の基準値との整合性について検討することを想定しています。
騒音等 6-10	349 351	表6.2-5(1) 【施設騒音】 表6.2-6(1) 【超低周波音】	1次	5(1)の【現地調査】について、 ①秋季~冬季を1季とみなすことが適切であるとする根拠をお示しください。 ②施設騒音と超低周波音の調査期間は同一期間とするかについて、ご教示ください。 ③3日間の測定において、平日及び休日の測定とすることをご教示ください。なお、回答にあたっては、そのように判断された理由をあわせてご教示ください。	①「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」(平成29年、環境省)によれば、『風配図等により地域の年間の風況を把握したうえで、(中略)原則として四季毎に測定することが望ましいが、季節による風況の変化が少ない等の理由で、(中略)測定時期を減じてよい。』とされており、事業地周辺の気象観測所等の過去10か年のデータから風配図を作成すると【別添資料6-10①】のとおりとなり、この結果から3回(春季・夏季・秋季~冬季)としました。また、同マニュアルによれば、「なお、自然現象や人の活動により暗騒音は季節により変化することがあるため、これらの変化にも注意が必要である。」との記載があることから、調査地点周辺で地域におけるイベントの開催、セミや鳥等の鳴き声、降雨により暗騒音が著しく変化する期間には調査を実施しないよう配慮する予定です。 なお、対象事業実施区域のえりも町は冬季積雪が少ない地域ですが強風や吹き溜まりによる調査機器への影響がないよう適切な調査実施のため天候には十分留意して実施する予定です。 ②それぞれ調査期間は同一期間とする予定です。 ③平日や休日ではなく、有効風速範囲のデータが適切に取得できるよう、週間天気図等で風況や天気を予測し測定日を検討する予定です。
騒音等 6-11	352	表6.2-6(2) 【超低周波音】	1次	10(2)において、超低周波音の心理的・生理的影響の評価レベル(ISO-7196)等との整合性について検討されると思いますが、この「等」とは何を指すのかをご教示ください。	「等」について、「低周波音の測定方法に関するマニュアル」(平成12年、環境庁)に示される「建具のがたつきが始まるレベル」、文部省科学研究費「環境科学」特別研究：超低周波音の生理・心理的影響と評価に関する研究班「昭和55年度報告書1 低周波音に対する感覚と評価に関する基礎研究」に記載される「圧迫感・振動感を感じる音圧レベル」が含まれます。
騒音等 6-12	354	表6.2-7(2) 【交通振動】	1次	10(2)において、道路交通振動の要請限度との整合性について検討されると思いますが、事業実施想定区域及びその周囲には、振動に係る規制地域はないとのことですので、どのように整合性を確認されるのかをご教示ください。	現段階では「第一種区域」の要請限度との整合性について検討することを想定しています。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
騒音等 6-13	355	図6.2-1騒音等調査地点	1次	①SE-5付近も工事関係車両の主要な走行ルート沿いであり、住宅が密集し、かつ福祉施設が存在する地域ですが、SE-5付近に道路交通騒音・振動を対象とした調査地点を設定する必要はないか、事業者の見解をご教示ください。 ②24ページの図2.2-6では、工事関係車両の主要な走行ルートがより広範囲に示されています。道路交通騒音・振動の調査に当たり、SR-1よりも浦河方面及びSR-4よりも広尾方面に調査地点を設定する必要がないと判断された理由をご教示ください。 ③風力発電機設置予定範囲を追記した図をお示しください。また、輸送路の利用に伴う造成が想定される範囲がある場合は、あわせてお示しください。	①SE-5については、輸送路(道路敷地)より約360m、近傍の住宅については、輸送路(道路敷地)より約310m離れており、その影響は小さいと想定されることから設定しておりません。 ②現段階では施工計画(通勤の起点等)が未定のため、対象事業実施区域周辺の輸送路で集落等が集中する箇所に調査地点を設定しておりますが、施工計画が明確になる段階で必要に応じて改めて調査地点の追加を検討いたします。 ③【別添資料6-13③】にお示しいたします。また、輸送路の利用に伴う造成が想定される範囲については、現段階では未定でございます。
騒音等 6-14	356	表6.2-8大気環境の調査地点の選定理由	1次	①環境騒音の調査地点について、他に設定すべき地点がないと判断されている根拠をご教示ください。なお、風力発電機設置予定区域や輸送路の利用に伴う造成が想定される範囲等から建設機械の稼働範囲をどのように想定し、調査地点を設定されたかがわかる回答としてください。 ②残留騒音/超低周波音の調査地点について、対象事業実施区域との位置関係から設定されていますが、風力発電機設置予定区域との位置関係を基に設定されなかった理由をご教示ください。また、他に設定すべき地点がないと判断されている根拠をお示しください。 ③気象の測定地点について、「気象の状況を代表する地点」はどのような条件を基に選定されるのかをご教示ください。	①調査地点については、現段階で改変区域や搬入路が未確定であるため、対象事業実施区域から1km範囲内の保全対象である配慮すべき施設、居住宅(主に集落)の位置に設定しております。 ②方法書で示した設置予定区域は不確定の箇所も多いため、対象事業実施区域から1km範囲内の保全対象である配慮すべき施設、居住宅(主に集落)の位置に設定しております。 ③気象の測定位置は、風況ポールの設置位置となります。風況ポールの地点設定は、地形及び植生を考慮して上空(40m-60m)において乱れの少ない風向風速が測定できること、地権者協議により土地が使用可能であること、風車配置予定区域から2km範囲を網羅できること等の条件を踏まえ設定しております。
水質 6-15	357	表6.2-9(1)【水の濁り】	1次	5(1)【現地調査】において、降雨時に1回計画されていますが、降雨時の採水のタイミングをどのように決定されるのかをご教示ください。	降雨時の採水のタイミングについては、まとまった降雨の直後を想定しており、事前に天気予報をチェックした上で現地調査実施日を決定する予定です。現地では雨雲レーダーなどのタイムリーな情報により採水作業が安全管理を含めて臨機応変に対応できる体制とする予定です。
水質 6-16	358	表6.2-9(2)	1次	予測対象時期の「造成裸地面積が最大となる時期」とは、現段階で想定している工事工程でいうとどの段階(工程)にあたるのかをご教示願います。	造成工事の1~3年目の期間内を想定しております。
水質 6-17	361	図6.2-2(2)水質調査地点	1次	①事業実施想定区域内を流下する野津内川、ポンサツコツ川、新消内川及びオショロスケ川への影響が把握可能な調査地点が設定されていませんが、調査地点を設定する必要がないと判断された根拠をご教示ください。 ②えりも町簡易水道の取水地点が対象事業実施区域の風力発電機設置予定区域に含まれていますので、工事の影響が取水地点の水質に及ぶおそれがある場合は、当該河川の取水地点上流に調査地点を設定してください。	①申し訳ございません。記載の地点図は誤りであるため、【別添資料6-17①】に訂正いたします。25地点になる計画となっております。修正箇所は赤字で表記いたしました。 ②上歌別川の取水地点とその集水域の一部が対象事業実施区域と重複し、水の濁りの影響を把握する上では、本取水地点の上流にも調査地点の必要性が高いと考えられるため、今後、事業計画が明確になった段階で調査員のアクセスが可能な場所であるかも含めて調査地点の追加を検討いたします。なお、3-13の回答と一部重複しますが、準備書では当該取水地点の集水域への影響を回避するため、同集水域は対象事業実施区域から除外する方針です。
地形地質 6-18	363 365	調査の基本的な手法 図6.2-4	1次	①現地調査の手法として、現地を踏査し、当該情報の整理及び解析を行う。とありますが、踏査してどのような情報を収集し、どのような解析を行うのでしょうか。ご教示願います。 ②またP365の図において、調査位置が明確に示されていませんが、典型地形及び海成段丘とされた範囲はすべて踏査するという意味でしょうか。	①現地踏査により土地利用状況や植生を把握し、その規模(面積)を整理する予定です。 ②調査予測対象とした地形が俯瞰できる場所において、土地利用状況や植生を把握する予定です。
地形地質 6-19	363	表6.2-11(1)	1次	5.調査期間等にある「重要な地形の状況を的確に把握できる日」とは、具体的にどのような条件が揃った場合なのか、ご教示願います。 また、p.366にある風車の影の調査の「5.調査期間等」にも似たような記載が見られますので、こちらについても併せてご教示願います。	調査期間について、いずれも非積雪期の晴れの日を予定しております。
風車の影 6-20	366 368	予測地域 図6.2-5	1次	調査地点として、風力発電機の設置位置に近い住居とするとありますが、現時点では風力発電機の設置位置が不明なため、どの程度位置に調査地点が設定されるのか不明となっております。 ①「風力発電機の設置位置に近い」というのはどの程度の位置関係のことをいうのか、お示しください。 ②調査地域内に「風力発電機の設置位置に近い」住居が複数確認された場合、それらすべてについて調査地点を設定するという理解で間違いはないでしょうか。	①2kmを想定しております。 ②ご理解のとおりです。
動物 6-21	369	調査、予測及び評価の手法	1次	天然記念物鳥類の繁殖の確認調査及び生息状況調査、並びにバードストライク及び移動経路阻害の可能性に係る調査等について、専門家の助言等に基づき、適切かつ十分に行ってください。専門家から追加・補足的な調査を要請された場合は適切に実施してください。これらの調査等に基づいて科学的なデータを提示し、事業計画が文化財保護法第125条第1項の保存に影響を及ぼす行為であるか否かの意見を専門家から聴取してください。事業計画が保存に影響を及ぼす行為の場合は文化庁と協議してください。	承知いたしました。



番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
動物 6-22	372	表6.2-13(1)	1次	施設の稼働に係る鳥類への影響に関する予測手法として、環境省の手引き等に基づき、風車への衝突確率等の推定を行うことが示されていますが、この場合、個々の風車だけではなく、事業区域全体についての推定結果が得られると思われれます。したがって、準備書段階での風車の配置の検討に当たっては、対象事業実施区域及びその周辺の推定結果を踏まえ、配置を検討すべきであり、また、準備書では、この推定結果を地図上に示し、推定結果と風車の配置との関係を明らかにした上で、風車の配置の考え方を説明していただきたいと考えますが、今後の、貴社の対応方針を回答願います。	準備書においては、風車への衝突確率等の推定結果と風車の配置との関係が分かるように図面にお示しする方針です。また、他環境要素の影響も踏まえつつ、バードストライクの影響を回避または低減できる配置を検討するとともに検討経緯も整理したいと思います。
動物 6-23	372	表6.2-13(4)	1次	予測対象時期等に示されている「造成等の施工による一時的な影響が最大となる時期」とは具体的にどの工程を想定しているのかご教示願います。また、「動物の生息状況が安定する」のは風車の運転が定常状態となってから何ヶ月後を指すのかご教示願います。	造成工事や電気工事、据付工事の工程が重複する1~4年目の期間内を想定しております。また、「動物の生息状況が安定する」のは風車の運転開始後(造成工事や電気工事、据付工事の工程が終了している状態かつ風力発電所運転が定常状態となる時期)を想定しており、地形改変及び施設の存在、施設の稼働を予測評価できる時期となります。
動物 6-24	373 ~ 375	表6.2-14	1次	一部の種や分類群を除き、調査時期が春季、夏季、秋季、冬季にて示されていますが、これらの時期は具体的に何月頃を想定しているのか、それぞれの分類群についてご教示願います。	以下に各時季の想定月を示します。 哺乳類/春季：4~6月、夏季：7~8月、秋季：9~11月、冬季：12~3月 コウモリ類/春季：5~6月、夏季：7~8月、秋季：9~10月 鳥類(一般鳥類)/春季：4~5月、夏季：6~7月、秋季：9~11月、冬季：12~3月、 渡り鳥/春季：3~5月、秋季：9~11月 タンチョウ/早春季：4~5月、春季：6月、夏季：7~8月、秋季：10~11月 爬虫類・両生類/春季：4~6月、夏季：7~8月、秋季：9~10月 昆虫類/春季：5~6月、夏季：7~8月、秋季：9~10月 魚類/春季：5月、秋季：10月 底生動物/春季：5~6月、秋季：9~10月
動物 6-25	373	捕獲調査 (哺乳類)	1次	①ピットフォールトラップについて、調査地点の環境によって捕獲数に大きな差が生じることなどから、設置数は、一地点あたり(環境区分毎に)少なくとも20~30個とすることが望ましく、また、口径を大きくするよりも、一調査地点あたりの設置エリアを広くし、設置数を増やすほうが、より良い調査が可能になると考えられます。適正な設置数による調査を行うことが重要であると考えますが、調査手法に関する事業者の見解を伺います。 ②また、トラップ類は二晩設置とありますが、小型の哺乳類は飢餓に弱いことを考えると、二晩設置して、回収時のみの確認とした場合は、対象種の大量死を引き起こす可能性も考えられますが、確認頻度についてどのように考えているのか伺います。	①ピットフォールトラップについて、毎日見回りしたとしてもトラップ内で死亡している個体も多く、またキタキツネ等により持ち去られることも多く、色々なリスクを伴うと考えられます。このため、適正な設置数について、現地実施前にあらためて専門家のご助言を頂きながら検討したいと存じます。 ②トラップの見回りは、毎日実施する予定です。
動物 6-26	370	調査地点	1次	バットディテクターによる調査について、風況観測ポールの設置位置は検討中とありますが、現時点で可能性が高い地点についてお示しください。	【別添資料6-26】にお示しいたします。現在検討中となり、配置可能性のある2箇所についてお示ししておりますが、残りの1箇所は検討中であり未定となります。
動物 6-27	373	表6.2-14(1)	1次	コウモリ類及び鳥類の調査にてブレード回転域について触れていますが、風力発電機の機種の変更により諸元が調査時に想定していた数値から逸脱した場合、再度調査や予測は実施されるのか、事業者の見解を伺います。	想定していた数値から逸脱した場合は、再度調査や予測を実施する予定です。
動物 植物 6-28	376 377 等	踏査ルート	1次	踏査ルートについて、現段階の計画は、風力発電機設置予定区域の外縁付近を踏査するものが多く、区域の中に延びる踏査ルートは場所によって濃淡があるように思われます。動物相や植物相を網羅的に把握するために、踏査ルートは改変の可能性が高いエリアや植生等環境の変化を十分把握できる程度に細かく設定する必要がありますが、事業者の見解を伺います。	踏査ルートについて、ご指摘のとおり、改変区域(設置予定区域)を網羅するよう配置することが望ましいですが、安全性等を加味して林道などアクセス性に優れた箇所に設定しております。
動物 植物 生態系 6-29	376 ~ 384 433 ~ 440 448 ~ 456	調査地点	1次	環境類型ごとに調査地点を設けていますが、いくつかの調査地点では対象となる環境タイプの広がり非常に小さかったり、他の環境タイプと接するよう場所であり、他の環境タイプの影響を受けるおそれが大きいと考えますが、見解を伺います。	地点の設定にあたっては、事前に調査・整理した相観植生(P590)を基に、ある程度のみとまりを考慮して、また生態系の解析を念頭に動物と植生の関連性にも配慮して各地点を設定しており、これらの調査結果から適切に動植物及び生態系への影響を適切に予測評価する予定です。なお、現地調査前に改めて環境類型(立地植生)を確認の上、また動物相に違和感がある場合は、地点の再設定をしたいと存じます。
動物 6-30	393	図6.2-8(8)	1次	ポイントセンサス地点AP-10及びAP-11をそれぞれ別の環境類型として整理していますが、距離が近いことで調査結果が似通ったものにならないでしょうか。また、それにより予測評価結果に支障が出ないものなのか、事業者の見解を伺います。	左記地点の設定にあたっては、ある程度のみとまりを考慮して設定しておりますが、現地前に改めて環境類型(立地植生)を確認の上、また相結果に違和感がある場合は、地点の再設定をし、予測評価結果に支障が出ないようにしたいと存じます。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
動物 6-31	396	希少猛禽類・ 渡り鳥調査地 点	1次	①定点観察地点の可視領域が、風力発電機設置予定区域を網羅していません。鳥類への影響を詳細に評価するために、少なくとも風力発電機設置予定区域の上空は網羅できるように調査地点を設定する必要があると考えますが、事業者の見解を伺います。 ②また、区域北西の風力発電機設置予定区域について、地上視野がほとんど確保されていないように思われます。一定程度の地上視野を確保して、森林の利用状況を確認することは、特にクマタカのような森林性の希少猛禽類の予測評価に当たり重要ではないかと考えられますが、事業者の見解を伺います。	①一部、風力発電機設置予定区域における可視領域が網羅されておりませんが、今後の調査で同箇所方向への飛去(ディスプレイ等の繁殖行動を含め)が集中する場合は、同箇所を視認できる箇所に定点を適宜移動しながら、もしくは移動定点を追加して、区域全体の希少猛禽類の生息分布状況を的確に把握する予定です。 ②ご指摘のとおり、森林性のクマタカについては地上視野も重要であることから、可視領域が網羅されていない箇所に対しては、同箇所方向への飛去(ディスプレイ等の繁殖行動を含め)が集中する場合は、同箇所を視認できる箇所に定点を適宜移動しながら、もしくは移動定点を追加して、区域全体の本種を含めて森林性猛禽類の生息分布状況を的確に把握する予定です。
動物 6-32	406 ～ 413	タンチョウ調 査ルート	1次	大半が自然林や二次林のルートもありますが、タンチョウの生息環境を踏まえると適切なルート設定といえるでしょうか。見解を伺います。	専門家のご助言も踏まえ、繁殖環境である湿地のほか、河川沿いや牧草地等を観察できるよう踏査ルートを検討しており、アクセス可能と想定される林道等含めると調査ルート図のとおりとなります。いずれにしてもどのような箇所(環境)を利用しているかを広範囲に調査し、周辺のタンチョウの生息分布状況を把握する予定です。
動物 6-33	414 ～ 422	(非公開対象 種の)調査地 点	1次	そもそも非公開対象種の調査をしなければならないということは、調査時には生息していても調査地点は生息に適した場所であり、今後、生息する可能性が十分にあると考えられます。そのような場所を事業実施区域から除外していないことについて、見解を伺います。	ご指摘の懸念事項については、本事業は環境影響評価法に基づき事業を進めているものであり、対象事業実施区域及びその周辺における非公開対象種の生息状況を現地調査により可能な限り詳細に把握し、それを踏まえ環境影響の予測・評価の実施、また専門家のご助言も踏まえ、事業計画においては影響を極力回避・低減できるように反映していくことが必要と考えております。除外すべき区域の判断をするためには、前述のとおり認識であり、事業性も踏まえたうえで現地調査・予測・評価、専門家のご助言等を基に慎重に事業区域設定及び風力発電機配置計画を行うものといいたします。
動物 6-34	441	図6.2-14	1次	①魚類・底生動物の調査地点が水質の調査地点と同一になっています。集水域等を踏まえて決定する水質の調査地点と、重要な動物等の生息状況を把握できる位置として設定する動物の調査地点は異なってくるのではないかと考えられますが、事業者の見解を伺います。 ②p.341の表6.2-1(7)に記載の専門家ヒアリングには、「調査地点の上流などではニホンザリガニが生息しているような区間があれば現地調査時に確認した方がよい」とありますが、本意見に対し現地調査時にそのような区間が見つかった場合、具体的にどのような対応をする予定なのか、事業者の見解をご教示願います。	①地点は水の濁りとの影響を把握するために同一としており、一方、魚類・底生動物の現地調査では地点の箇所を限定的に調査するのではなく、瀬や淵、水際(河畔林)の生息環境を網羅できるよう、適宜、範囲を広げて調査する予定です。 ②本種の好適生息環境(河畔林が発達する小沢等)が立地する場合は、源頭付近まで適宜範囲を広げ調査をする予定です。
植物 6-35	447	8 予測対象時 期等	1次	植物に係る環境影響を的確に予測できる時期として、「動物の生息状況が安定する時期」とは具体的にどのような状況になった時でしょうか。	申し訳ございません。「動物の生息状況が安定する時期」は誤りでございますので、P447の8予測対象時期等の項目においては「工事期間中における植物の生育環境への影響が最大となる時期及び発電所の運転開始後植物の生育環境が安定する時期とする。」へ修正し、準備書以降に適切に記載いたします。
植物 6-36	449	図6.2-15(2)	1次	本図の植生凡例や群落の分布状況について、P74の図3.1-22と細部が異なっているのですが、本図は何に基づいて作成されたものなのか、お示しください。	P589に記載しておりますとおり、事業実施想定区域(配慮書段階)及びその周辺の相関植生図を作成し、植生の現地確認を行ったものとなります。ご指摘の植物項目における、注記をしておらず申し訳ございませんでした。
植物 6-37	456	植生調査地点 の選定理由 (自然林)	1次	①自然林のダケカンバ群落、エゾイタヤミズナラ群落の植生調査地点が全て対象事業実施区域外に設定されていますが、区域内にダケカンバ群落の地点が確認されていないという理解で間違いはないでしょうか。 ②ハルニレ群落の調査地点について、Q23が区域外に設定されています。近くの区域内に当該群落の地点が見られるほか、Q15地点の南側、風力発電機設置予定区域内にも一定規模の当該群落が見られますが、この地点に設定した理由をご教示願います。	①ご理解のとおりです。 ②Q23については、図面上は「ハルニレ群落」となっていますが、専門家のごヒアリング結果も踏まえてP105の「えりも岬ヒダカミツバツツジ群落(特定植物群落)」に設定しております。
植物 6-38	456	植生調査地点 の選定理由 (草原)	1次	ササ群落の調査地点について、当該群落は区域内に点在していますが、Q13は群落としてはかなり小さく、その北西側に大きな群落があることから、そちらで調査を行った方が群落の代表的な状況を把握できるのではないのでしょうか。また、Q16は区域外に設定されていますが、Q26の周辺やQ08の北側等風力発電機設置予定区域内に当該群落がある地点が他にもある中、区域外を調査地点とした理由についてもあわせて伺います。	ササ群落については、安全性を踏まえてアクセスのし易い林道脇などに設定しております。いずれにしても組成調査前に現地を再確認の上、必要に応じてご指摘のまともりも加味して地点を再設定もしくは新規追加したいと存じます。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
植物 6-39	456	植生調査地点 の選定理由 (水辺・海 浜)	1次	①ハンノキ群落(Ⅳ)の調査地点について、Q25の1箇 所のみとされていますが、Q26の南側やQ33の北側 にも、当該群落が存在することが示されています。これ らの箇所も風力発電機設置予定区域内であり、調査地 点を設置するべきではないでしょうか。また、Q25の位 置についても、群落の端部に設定されていますが、で きるだけ群落を代表する地点を設定するべきと考えま すが、あわせて事業者の見解を伺います。 ②Q11の近傍にハマニンニクコウボウムギ群集がある と思われませんが、これは区域に含まれているのでし ょうか。含まれている、もしくは改変区域と隣接して影 響を受ける可能性がある場合には、当該群落の調査地 点を追加することが望ましいと考えますが、事業者の 見解を伺います。	①ご指摘のQ33の北側は放牧地内を通過しないとアクセス できないため、衛生的観点(人が立入ることによる家畜伝 染病の拡大防止)から設定を見送りました。Q26の南側 については組成調査前に現地を再確認の上、必要に応じて 本群落の地点を変更もしくは新規追加したいと存じます。 ②ご指摘のハマニンニクコウボウムギ群集のまとまりは 区域外となります。改変区域と隣接して影響を受ける可能 性があるかどうかについては、風力発電機配置計画及び 改変区域等の施工計画が明確となった段階で、地点追加 等を検討いたします。
生態系 6-40	461	上位性注目種 の選定	1次	オオタカとノスリについて、食物連鎖図(P460)で高 次消費者として同位にあるものの、「クマタカと比較 すると栄養段階が低い」となる理由を説明してくださ い。	本方法書の食物連鎖図では分かりやすい表記としたた め、クマタカ、オオタカ、ノスリとも最上位で整理し ておりますが、これらの食性について、北海道の猛禽 類(2014年 応用生態工学会)によれば、クマタカは ヘビ類、エゾクロテンやエゾリス等の中小型哺乳類、 エゾライチョウやキジバト、ヒヨドリ等の鳥類のほ か、オオタカ、ノスリ、フクロウ等の猛禽類も捕食す ると指摘しており、この点から、オオタカとノスリに ついては「クマタカと比較すると栄養段階が低い」と 推測されます。
生態系 6-41	461	典型性の注目 種の選定	1次	森林性小型鳥類として、ヒタキ類とカラ類等としてい ますが、対象となる種数が多く対象種として具体性が ないこと、また、種群による主な利用環境の違いもあ ることから、様々な要因で各種の影響が相殺され目的 に適った調査結果が得られないのではないでしょ うか。見解を伺います。	森林性小型鳥類の注目種として、既存資料や森林が優 占する立地環境を踏まえると、森林性のヒタキ類、も しくはカラ類を想定しており、準備書段階では、これ らの中から現地調査結果により、確認された種もしく は種群を対象に選定する予定です。
生態系 6-42	462	典型性 餌資源の状況	1次	餌資源として冬季の状況を把握しない理由を伺いま す。	森林性のヒタキ類などについて、既存資料の相を見る と、トラツグミやクロツグミ、キビタキなど夏鳥が多 く、また場の評価という観点に立つと、繁殖環境とし ての評価が重要になると考えられるため、ここでは春 季～秋季の餌資源を調査する予定です。ただし、現地 調査結果から選定した注目種もしくは種群が冬季も多 く周辺を利用している場合は、その餌資源にも注目し た調査を再度検討する予定です。
景観 6-43	485	表6.2-30(1)	1次	①「風力発電施設の審査に関する技術的ガイドライン (環境省, 2011)」には「モニタージュは四季を通じて 撮影した写真で複数点作成することが望ましい。特に 積雪地で、積雪期も利用がある場合は、積雪期の状態 でのモニタージュ作成も行うことが望ましい。」とあ ることから、フォトモニタージュ作成の際は、風力発 電設備が視認しやすい晴天の日を想定して作成すると ともに、眺望点やゾーニング区分ごとに四季(春季・ 夏季・秋季・冬季)を通して撮影した写真で複数枚作 成することが重要と考えられますが、事業者の見解を 伺います。 ②現地調査の調査期間を「主要な眺望景観及び身近な 景観に係る情報を適切かつ効果的に把握できる期間、 時期及び時間帯」としてはありますが、それはいつを想定 しているのか、ご教示願います。 ③予測の基本的な手法について、「フォトモニター ジュによる視覚的な表現手法により影響を予測する」 とありますが、その際、地域住民や主要な眺望点の利 用者に対し、フォトモニタージュを活用したアンケート は実施されるのでしょうか。影響予測の手法について 具体的にご教示願います。	①調査地点によってはアクセスが困難である等の理由か ら、春季・夏季・秋季の3季となる場合もあると存じま すが、基本的には積雪の少ない地域であることも含め、 フォトモニタージュ作成の際はご指摘の内容について十分配慮して4 季において作成するように検討して参りたいと存じます。 ②以下に各時季の想定月を示します。 春季:4~6月、夏季:7~8月、秋季:9~11月、冬季:12~3 月 撮影時間については晴天の事業区域が逆光とならないよ うに配慮した主に太陽が南中する時間を想定しておりま す。 ③予測の基本的な手法として作成したフォトモニタージュ を用いた地域住民や主要な眺望点の利用者へのアンケート については現段階で実施の予定はありませんが、眺望点と している地点の管理者等からの要望に応じて検討したいと 存じます。
景観 人触れ 6-44	487 、 488 、 495	表6.2-31、 32、35	1次	景観資源や主要な眺望景観、主要な人と自然とのふれ あい活動の場には様似町が含まれていますが、様似町 を関係地域としていない理由及びその妥当性について 事業者の見解をご教示願います。	配慮書段階の事業実施想定区域において、景観及び人と 自然との触れ合いの活動の場における環境影響が及ぶ範 囲として考えられていたことから、様似町も関係地域とし て設定しておりました。本方法書においては、様似町に近接 する西側区域を対象事業実施区域から除外したことにつ いて様似町企画調整課へ事前説明(R5.8.21)し、様似町を関 係地域としないこと、方法書縦覧を行わないことについて了 解をいただいたものです。なお、景観及び人と自然との触 れ合いの活動の場における環境影響については、環境影 響を適切に把握する目的で地点設定しています。
景観 6-45	488	表6.2-32	1次	①区域の絞り込みに伴い、配慮書段階(P307)から区 域からの距離が変わっていたり、地点が追加されたり しています。最大垂直見込角について、最新の状況を ご教示願います。 ②No.11~20の各地点について、「各地区(集落)を代表 する場所を眺望点とした」とありますが、具体的にど のような場所を眺望点としているのでしょうか。	①P596の表7.2-2において景観項目にて垂直見込角の比 較を記載しております。 ②集落内でもかつ可視領域に含まれる箇所(風車を視認で きる可能性のある箇所)を選定しており、視点場近傍にお いて障害物等フォトモニタージュ作成の際に極力支障の出 ない居住宅近傍を含めた、集落内地点を設定しておりま す。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
景観 6-46	490	図6.2-17(2)	1次	本事業の配慮書手続きの際、百人浜や襟裳岬から日高山脈方向の眺望について質問し、それらを眺望した場合の予測評価の実施を検討する旨の回答をいただきましたが、本図の主な視方向に反映されていません。どのような検討を行い、日高山脈方向の予測評価の実施をしないこととしたのか、事業者の見解を伺います。	申し訳ございません。ご指摘のとおり、主な視方向に誤りがありました。準備書では、日高山脈方向の眺望への予測評価も実施するものとしたします。
景観 6-47	491	表6.2-33(1)	1次	現地調査の季節を「人と自然との触れ合いの活動の場の特性、アクセスルート等を勘案して、適切な季節とする。」とありますが、具体的にどの時期を想定しているのかご教示願います。 また、p.493においても「適切な季節」とありますが、こちらについても併せてご教示願います。	P491及びP493におけるご指摘の「適切な季節」についてですが、「人と自然との触れ合いの活動の場」において選定した調査地点ごとの、利用頻度が高いと見込まれる季節を対象といたしますが、P491及びP493にも記載しているとおり、場の特性や調査地点へのアクセスルートの利用状況、地形の改変状況も併せて勘案した季節という意味で「適切な季節」としております。
人触れ 6-48	496	図6.2-18	1次	とんがりロードフットパスと風力発電機設置予定区域が一部重複していますが、フットパスと風力発電機や工事用道路等との関係（位置や工事の影響）はどうなるのでしょうか。	現段階では風力発電機配置計画及び工事用道路等についての詳細な位置については未定でございますが、とんがりロードフットパスと対象事業実施区域、風力発電機設置予定区域、工事用道路等が重複していることから、環境影響を受ける可能性があることから、調査地点として選定いたしました。現地調査・予測・評価において、とんがりロードフットパスへの環境影響を極力回避・低減できるように、風力発電機配置計画及び工事用道路等による影響へ配慮した計画を検討して参ります。
廃棄物 等 6-49	497	表6.2-36	1次	1. 予測の基本的な手法において、「産業廃棄物の種類ごとの排出量を把握・予測する。」とされていますが、発電所に係る環境影響評価の手引では、「発生量に加えて最終処分量、再生利用量、中間処理量等の把握を通じた調査、予測を行う。」とされています。排出量以外の調査・予測は実施しないのでしょうか。	産業廃棄物における予測評価においては、種類ごとの排出量を把握し、最終処分量、再生利用量、中間処理量等の把握を通じた予測評価を実施いたします。
廃棄物 等 6-50	497	表6.2-37	1次	「発電所に係る環境影響評価の手引」においては、発生量に加えて最終処分量、再使用量の把握を通じた調査、予測を行うことについて記載がありますが、これらについても調査予測を実施しないのでしょうか。	残土における予測評価においては、残土の発生量について把握し、工事に伴い発生する土量について予測を実施いたします。
廃棄物 等 6-51	497	残土 造成等の施工による一時的な影響	1次	予測の基本的な手法として「環境保全のために講じようとする対策を踏まえ、残土の排出量を把握し、予測する。」とありますが、具体的に何の影響についてどのように予測するのでしょうか。	工事の発生に伴い発生する残土の影響については、場外搬出による外来植物の移動などの影響が懸念されます。環境保全措置として地形や既存林道等の活用による改変面積の低減、掘削工事にもなう発生土は埋め戻し、盛土及び敷き均しに利用するなどし、対象事業実施区域内での再利用に極力努めるなどの措置を検討して参ります。
6-52	498 ～ 504	他の風力発電事業との累積的影響について等	1次	①本事業の対象事業実施区域が、複数の事業の区域と重複しており、累積的影響について極めて慎重な検討を要すると思えますが、他の事業者との協議状況をご教示願います。 ②また他事業はいずれも方法書手続きを終え準備書はまだ手続き前であることから各事業について現在、調査が実施中である可能性があり、その場合には同一地域に調査員等が集中することによる弊害についても懸念されますが、見解或いは対応を伺います。 ③「対象事業実施区域及びその周囲において、既設の風力発電所は立地しない」としてはありますが、「既設の風力発電所」の定義と、どのような情報収集を行い、立地しないことを確認したのか、お示しください。	①累積的影響に係る他事業者との調整は、準備書段階の予測評価において検討することとし、方法書段階での協議は未実施です。 ③「既設の風力発電所」の定義については、環境影響評価法の対象となる風力発電事業によって設置された、風力発電所です。情報収集についてはP498の出版情報において確認を行いました。 【②については非公開】
6-53	504	(1)累積的影響の対象事業の選定	1次	累積的影響の項目並びにその手法については今後検討されるとのことですが、どのように検討することを想定されているか（参考文献や専門家等へのヒアリング実施有無など）をご教示ください。	累積的影響の項目並びにその手法の検討については、本事業の準備書段階における、周辺の他事業において環境影響評価準備書の公表がされ、各事業について風車配置が明確となった場合に、環境影響が想定される項目について把握し、「風力発電所の環境影響評価の実施に係る事例集（平成29年12月環境影響評価審査の検証風力発電所事例集検討委員会）」等の最新の知見収集、専門家ヒアリングにおいて累積的影響についてもご助言頂き、予測・評価していく予定です。

## 7. 「第7章 その他環境省令で定める事項」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
7-1	521	意見32	1次	猿留山道について、管理者へのヒアリングの実績及び本方法書の作成に際して検討した内容について伺います。	猿留山道について管理者へのヒアリングは今後実施する現地調査において、人と自然との触れ合いの活動の場の調査地点として、利用状況等については実施する予定です。
7-2	525	意見49	1次	「JR東日本の子会社が、なぜJR北海道が管轄するところで、自然破壊を伴う事業を行おうとしているのですか。」について見解を示してください。	JR東日本では、環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ2050」を策定し、2050年度の鉄道事業におけるCO <sub>2</sub> 排出量「実質ゼロ」に取り組んでおり、全国での再生可能エネルギーの事業開発を進めています。本事業は、JR北海道と連携した陸上風力発電所の開発に取り組んでいるものです。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
7-3	592	市街地の回避	1次	えりも町再生可能エネルギー発電設備等の設置及び運用の基準に関する条例においては、大型風力は住宅等との距離を風車の全高の5倍以上離すとされており、本事業では約800m～900mとなる場所、除外範囲は市街地から500mの範囲となっていますが、対象事業実施区域内に住宅や集落が含まれていることも含め、貴社の法令遵守について認識を伺います。	風力発電機の配置検討に際し、えりも町条例を遵守するとともに、住宅等との離隔を十分に確保し、騒音影響等の回避・低減に努めます。対象事業実施区域は、風力発電機の輸送路及び管理用道路の新設を含めた範囲として設定したため住宅等を含んでおります。

#### 8. その他に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
8-1	資-2	資料1(2)	1次	No. 19「北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑」は令和4年に増補新版が出ているので、そちらを参照し、本編に反映する必要がある種がいる場合、それをご教示願います。	「増補新版 北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑」(2022年5月27日発行)にて種の確認を行いました。新たに追加する該当種はございませんでした。